

令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞者

〔個人〕・・・1名

たきぐち としゆき
滝口 敏行(大阪府^{さかいし}堺市)

〔団体〕・・・12団体

まるせつ ぶ ち く じ ち かいれんごうかい
丸瀬布地区自治会連合会(北海道^{もんべつぐんえんがるちよう}紋別郡遠軽町)いっばんしゃだん ほうじん せきやまあいりん こうえきかい
一般社団法人 関山愛林公益会(山形県^{ひがし ね し}東根市)にしとうきよう し ぜん み かい
西東京 自然を見つめる会(東京都^{にしとうきよう し}西東京市)しゃかいふく し ほうじんじょうえいかい ちょうせい ほ いくえん
社会福祉法人 浄英会 長生保育園(新潟県^{ながおか し}長岡市)き ば がた かい
木場潟フローラの会(石川県^{こまつ し}小松市)み し ま し ひがしだい ば はな かい
三島市 東大場花の会(静岡県^{みしま し}三島市)かぶしきがいしゃ こう べ あーるあんどーいー
エスベック株式会社 神戸 R & D センター(兵庫県^{こう べ し}神戸市)こうえきざいだん ほうじん よし の がわ き かわげんりゅうものがたり
公益財団法人 吉野川紀の川源流物語(奈良県^{よし の ぐんかわかみむら}吉野郡川上村)あ ぶ ちようりつふく が しょうがっこう
阿武町立福賀小学校(山口県^{あ ぶ ぐん あ ぶ ちよう}阿武郡阿武町)がっこう ほうじん つ づきいくえいがくえん に ほんけいざいだいがく
学校法人都築育英学園 日本経済大学(福岡県^{だ ざい ふ し}太宰府市)ながたに しんこうきう ぎ かい
ながたに振興協議会(大分県^{ぶん ご おお の し}豊後大野市)そ お し りつつねよししょうがっこう
曾於市立恒吉小学校(鹿児島県^{そ お し}曾於市)

たきぐち としゆき
滝口 敏行

大阪府^{さかいし}堺市

＜功績の概要＞

同氏は、公益財団法人大阪YMCAに勤務し、同法人が行う野外教育プログラムに森林の管理・育成を取り入れたほか、市民参加型の森林保全活動の推進に取り組むなど、幅広い世代に対する緑化意識の醸成に貢献している。

平成6年に森林インストラクターの資格を取得した同氏は、青少年の野外教育プログラムの中に森林の管理・育成の活動を取り入れるのみならず、この活動を市民参加の森づくりに発展させるため「大阪YMCA森林ボランティアの会」を組織し、森林ボランティアと連携した森林の管理・育成にいち早く取り組んだ。平成9年には、市民や企業、団体等の森林ボランティアの担い手の養成を目的に全国的な組織化を図り、「NPO法人日本森林ボランティア協会」を有志とともに設立した。

また、市民参加による森林保全活動を継続性のある運動とするため、広範な知識と技能を有するリーダーを育てることを目的とした市民大学「森林大学」を開講し、自らも講師を務めるなど、指導者としての役割も担っている。さらに、大阪を中心とした西日本各地で森林ボランティア養成講座「森林セミナー」を開催するほか、地元の森林組合と連携して協同事業や交流イベントも行っており、広く一般の方も参加できる森林づくりの取組を進めている。

これら同氏の取組は持続的・広域的な緑化推進活動に貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

まるせつ ぷ ち く じ ち かいれんごうかい
丸瀬布地区自治会連合会

所 在 地	北海道紋別郡遠軽町
代 表 者	会長 中南 学

<功績の概要>

同団体は、「各自治体との連絡協調を図り住みよい地域づくりと住民の福祉の増進を図ること」を目的として昭和42年に設立された団体であり、平成元年に地域の道路に植樹帯が設置されたことを契機に緑化活動に取り組み、地域の緑化推進に貢献している。

遠軽町丸瀬布内にある一般国道333号沿線の緑化活動では、植樹帯にサルビアやマリーゴールドを植栽するとともに、植栽後の管理を継続的に実施し、国道を通る人の目を楽しませている。これらの活動は、地域住民の緑を守り育てる意識の普及啓発や地域コミュニティの活性化にもつながっており、幅広く地域に貢献している。

また、平成13年には、道路管理者である北海道開発局及び地元自治体と「ボランティア・サポート・プログラム」協定を締結し、行政のサポートを受けながら活動を行っている。行政と連携した活動とすることにより、活動の継続性と公共性が強まり、地域主導の緑化活動がより安定した形で実施されている。

こうした長年にわたる安定した取組は、地域の緑化推進のみならず、伝統ある取組として地域の活力を支える原動力ともなっており、その功績は高く評価されるものである。

いっばんしゃだんほうじん せきやまあいりんこうえきかい
一般社団法人 関山愛林公益会

所在地 山形県東根市
代表者 理事長 大江 善博

<功績の概要>

同法人は、「森の緑は持続可能な社会を支える資源であり、未来の為、関山の山林を守り後世に引き継ぐこと」を目標として昭和31年に設立され、約4,500haに及ぶ広大な森林を所有している。設立以降、長年にわたり森林整備を行い、地域の森林の適正な管理に寄与するほか、地域と連携した森林保全活動や地元児童への森林環境教育等にも取り組んでおり、幅広く地域の緑化推進に貢献している。

森林保全活動では、過去の伐採や自然災害により劣化したブナ林を再生させるため、地元企業及び山形県と「やまがた絆の森」協定を締結し、ブナの植樹や植樹後の管理を継続して行うほか、県指定文化財天然記念物である「大滝のカツラ」や近代化産業遺産である「関山^{ずいどう}隧道」の保全活動も行っており、地域の貴重な自然や歴史資源の保全にも尽力し、地域住民及び来訪者の森林保全意識の向上にもつながっている。

また、森林環境教育では、地元の児童を対象として、地域の伝統産業である「関山炭」の炭焼き体験活動を実施するほか、小学校の森林学習で行われている植樹活動や木工体験活動の講師も務めるなど、森林文化の継承と緑化意識の醸成に大きく寄与している。

同法人によるこれらの取組は、地域の森林保全のみならず森林環境教育や緑化意識の普及啓発にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

にしとうきょう し ぜん み かい
西東京 自然を見つめる会

所 在 地 東京都^{にしとうきょうし}西東京市
代 表 者 代表 ^{おおや}大矢 ^{たかじ}隆治

＜功績の概要＞

同団体は、次世代に豊かな自然を引き継ぐことを目的として平成3年に設立された市民ボランティア団体であり、地域の植物公園の維持管理を行うほか、多岐にわたる活動を実施し、地域の緑化推進に貢献している。

植物公園の維持管理においては、植生の保全や定期的な手入れを継続して実施しており、都市部における自然環境の質的向上及び市民の憩いの場の提供に寄与している。

また、地域住民に地域の樹木へ親しみを持ってもらうため、公募により選定された50本の樹木を「西東京市の木50選」として情報発信を行うほか、「西東京の木50選を訪ねる会」を開催している。さらに、自然との触れ合いを日常化することを目的とし、地元の自治体と協働して市内に「みどりの散策路」全14コースを設定し、散策マップの作成やガイド付きイベントを開催するほか、自然観察会や、植物や樹木についての学習機会の創出を目的とした講演会の開催、会報の定期発行も行っており、自然に親しむ機会を広く提供している。

同団体によるこれらの取組は、地域住民が自然とつながる機会を創出し、地域の緑化推進のみならず森林環境教育や緑化意識の普及啓発にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

しゃかいふく し ほうじんじょうえいかい ちょうせい ほ いくえん
社会福祉法人 浄 英会 長 生保育園

所 在 地	新潟県 ^{ながおかし} 長岡市
代 表 者	園長 ^{さんじょう} 三 条 ^{まさみち} 正道

＜功績の概要＞

同園は、平成15年の現園舎建設以降、「暖かな春から雪深い冬まで、いつでもこどもたちが遊べ、四季の変化を感じられる園庭」を目指して自然環境の保全や改善に取り組んでおり、地域の緑化推進に貢献している。

同園では自然いっぱいの環境の中で四季折々の自然を楽しむ花いっぱい活動、花のまちづくり活動に取り組んでおり、園庭や園舎周辺には春から秋まで色とりどりの花が咲くよう工夫が凝らされ、60種類以上の草花や樹木が植栽されている。園児は、花の成長と開花を楽しむだけでなく、草花を利用した花束づくりや草木染など様々な体験をしており、自然と親しむ心を育てている。これらの取組内容について保護者や地域住民に積極的に発信するとともに、家庭でもグリーンカーテンづくりができるよう種を配布するなど普及啓発活動を継続して行い、地域全体に緑化の輪を広げている。

また、自然環境教育の一環として、スウェーデン発祥の自然環境教育プログラム「森のムッレ教室」を取り入れた野外活動も行っており、野外で乳幼児期の発達に応じた遊びを行いながら「いのちの循環」や「自然と自分とのつながり」を体感的に学ぶ取組を実施している。

同園によるこれらの取組は、児童が自然に触れ、緑を大切にする心を育む機会を提供していることに加え、地域全体の緑化意識の醸成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

木場潟フローラの会

所 在 地	石川県小松市
代 表 者	代表 あいば かよこ 合場 加代子

<功績の概要>

同団体は、年間約80万人が訪れる木場潟公園において花壇整備活動を行うほか、幅広い世代への花の活動の普及に取り組むなど、地域の緑化推進に貢献している。

平成20年の設立以降、木場潟公園を拠点に花壇整備のボランティア活動を継続し、季節ごとの植替えや手入れを行っている。これらの活動は公園の景観・魅力向上にも寄与し、全国高校インターハイ、東京五輪・パラリンピック等の事前合宿が行われた際には国内外の来訪者に向けたおもてなしを実現し、幅広い世代への緑化意識の醸成につなげている。近年は北陸新幹線小松駅前花壇の整備・管理も担い、地域全体の緑化レベル向上にも貢献している。

同団体は、花づくりを通じた緑化思想の普及にも貢献している。寄せ植えやハンギングバスケットの講習会を開催し、子どもから高齢者まで花や緑と触れ合うことのできる機会を提供するほか、市内の高校や大学と協働で行っている花飾りづくりは、若い世代への緑化意識の醸成につながっている。また、小松市が開催した「小松市花のまちづくり担い手講習」では、「多年草・宿根草しゅっこんそうを取り入れた花壇づくり」の講師も務めるなど、ローコスト・ローメンテナンス型による持続可能な花壇普及にも寄与している。

同団体によるこれらの取組は、地域での花のまちづくりを牽引し緑化意識を地域に根付かせる役割を果たしており、その功績は高く評価されるものである。

みしまし ひがしだい ば はな かい
三島市 東大場花の会

所 在 地	静岡県 ^{みしまし} 三島市
代 表 者	代表 ^{こにし} 小西 ^{のぼる} 昇

<功績の概要>

同団体は、長年利用されていなかった約1,000㎡の公共用地を活用し、平成17年から花壇づくりに取り組み、美しい景観と市民の憩いの場を創出するなど、地域の緑化推進に貢献している。

花壇づくりでは、17区画の花壇を整備し、花苗の植栽、除草、水やりなど丁寧な栽培管理により、地域の人々が四季折々の花を楽しめる環境を整備している。その際、開花前の除草や、花がら摘みが不要な花苗の活用、挿し芽や宿根草^{しゅっこんそう}による苗の増殖など、作業負担を軽減し、少人数でも丁寧な維持管理ができるよう工夫を凝らした方法により整備を行っている。花壇通路には芝生を張り、ベビーカーや車椅子でも楽しめるようバリアフリー化を図るなど、多くの利用者に寄り添った花壇づくりを進めている。

花苗の植栽作業には町内有志約30名が参加しており、会員だけでなく地域住民が一体となって花壇整備を行っているほか、地域の納涼祭や三島市主催の「みしま花のまちフェア」において花壇で育てた花の切り花や花苗を無料配布するなど、地域住民の緑化思想の普及に大きく貢献している。こうした取組が高く評価され、市内を運行するバスの名称が「花のまち号」となるなど、地域の象徴としての役割を担うまでに至っている。

同団体によるこれらの取組は、地域の緑化推進のみならず幅広い世代に対する緑化意識の普及啓発にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

かぶしきがいしゃ こうべ あーるあんどでいー
エスベック株式会社 神戸 R & D センター

所 在 地 兵庫県神戸市
代 表 者 代表取締役社長 荒田 知

<功績の概要>

同社は、平成13年の操業当初から、「土地本来の自然の回復」をコンセプトに、地域の植生に基づいた外周林や屋上草地など多様な緑地を整備し、敷地全体に自然と調和した環境を構築してきた。また、地域の教育機関と連携し、敷地内外の緑地を活用した生物多様性の保全や環境教育活動にも積極的に取り組み、地域の緑化推進に貢献している。

地域の植生調査をもとに選定した65種、3万本の樹木を従業員自らが植樹し、周囲の森林と連続性を持たせた「エスベックの森」を造成しているほか、地域性に配慮した草地と水辺から成るビオトープを整備し、多様な野鳥や昆虫が生息する生態系を創出している。敷地内の緑地の整備にあたっては、自然循環や木材の活用を重視した維持管理を実践している。技術開発棟の屋上には、六甲北部のあぜ道を地域性種苗100%で再現した草地を造成しており、希少種の生育環境にもなっている。また、近隣の大学と連携した森づくりを学ぶセミナーの開催や地元の小学生向けの環境教育にも取り組んでおり、地域の緑化推進のみならず幅広い年代に対する環境教育に貢献している。さらに、林野庁の「法人の森林」制度を活用し、地域の里山林に生育する在来種の苗木を植栽した「エスベック50年の森」では、地域の大学と連携し、用材生産と環境保全の両立を図るとともに調査・研究フィールドとして活用している。

同社によるこれらの取組は、自社内にとどまらず地域全体の緑化推進及び緑化意識の向上につながっており、その功績は高く評価されるものである。

こうえきざいだんほうじん よし の がわ き かわげんりゅうものがたり
公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

所 在 地	奈良県 ^{よしのぐん} 吉野郡 ^{かわかみむら} 川上村
代 表 者	理事長 ^{いずたに} 泉谷 ^{たかお} 隆夫

＜功績の概要＞

同法人は、「源流から海まで恵みをつなぐ」を合言葉に、紀の川源流域に広がる天然林を主たるフィールドとして生態調査や保全活動に取り組むほか、環境学習や体験ツアーの実施を通じて森が育む水の恵みや流域全体のつながりを可視化し、地域住民が水源林の役割を理解し行動する機会を提供するなど、多岐にわたり地域の緑化推進に貢献している。

川上村が保全する天然林において継続的な自然環境調査を実施し、水源林の働きや緑のダムとしての機能を明らかにしながら、保全に向けた理解促進を図っている。

また、源流部で深刻化するシカの食害に対しては、防鹿柵を複数箇所に設置し、専門家や大学生、ボランティアが参加するモニタリング調査を行い、植生の回復に取り組んでいる。このほか、源流域におけるゴミ問題や不適切な利用に対して、巡回や啓発活動を行うなど、森と水との健全性を保つための現場対応にも取り組んでおり、水源林の保全と流域の自然再生に対する重要な役割を果たしている。

さらに、水源林の働きとその貴重さを体験するツアーの実施や学校教育への支援など、多角的な方法で緑化思想の普及に取り組んでいる。

同法人によるこれらの実践的な取組は、地域の緑化推進のみならず森林環境に対して主体的に関わる人材の育成にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

あぶちょうりつふくがしょうがっこう
阿武町立福賀小学校

所在地	山口県阿武郡阿武町
代表者	校長 吉谷 亮

<功績の概要>

同校は、山口県北東部の山間地にあり、豊かな自然環境を活かした緑化活動を地域と連携しながら継続的に実施し、地域の緑化推進に貢献している。

児童が主体となって校内における花の植替え、花壇の整備活動を行う「グリーンタイム」や「フラワータイム」を設け、年間を通じて計画的に環境整備を実施しているほか、地域団体や卒業生と協力して校内の樹木剪定や草刈りなどを行い、校内全体の自然環境保全に地域一体となって取り組んでいる。

毎年地元の阿武町林業振興会や山口県萩農林水産事務所の協力を得て実施している森林体験学習では、森林や林業についての講義を受けるほか、コマ打ち体験や校内へのクヌギ、コナラ等の植樹、間伐材を使った木の名札づくりなど、森林環境の維持管理に関する実践的な活動により、森林と生活との関わりを学ぶ場を創出している。

また、児童は各地域にある子ども会による花壇の手入れにも参加しており、同校での経験が生きた力となり、地域での花いっぱい運動の原動力となっていると同時に地域交流の促進にもつながっている。

同校によるこれらの活動を通じて育まれる緑化意識は、学校関係者のみならず地域にも波及しており、地域の緑化推進に加え、緑化意識の普及啓発にも貢献し、その功績は高く評価されるものである。

がっこうほうじん つづきいくえいがくえん にほんけいざいだいがく
学校法人都築育英学園 日本経済大学

所 在 地	福岡県 ^{だざいふし} 太宰府市
代 表 者	理事長 学長 ^{つづき} 都築 ^{あすか} 明寿香

＜功績の概要＞

同大学は、平成10年の「TG Rose Garden（4 ha）」開園以降、緑化活動と環境保全に取り組むとともに、庭園を無料開放して緑に親しむ機会を提供するほか、環境学習を実施するなど、地域の緑化推進や幅広い年代における緑化意識の醸成に貢献している。

庭園への年間来園者数は2万人を超えており、草花や紅葉を楽しむ場となっているほか、健康増進や地域交流の場としても活用されている。また、観光ツアーや自治会の活動拠点としても利用されており、毎年10～30団体が訪れ、緑化への関心を高める役割も果たしている。

同大学教職員による環境学習や木の実の収穫、花の植栽などの体験学習を通じて、緑の大切さを楽しく学ぶ機会を提供しているほか、学生ボランティアとともに庭園の定期的な整備・保全活動を行い、希少種であるフジバカマの繁殖やアサギマダラの飛来環境の維持にも努めるなど、緑化活動と生態系保全を一体的に推進している。

さらに、「人」「動物」「環境」の健康はすべて一体であるという「ワンヘルス」の理念や「SDG s」に関する取組を積極的に推進しており、特別授業やイベントを通じて、緑化と環境保全の重要性についての普及啓発活動を行っている。

同大学のこれらの活動は、地域の緑化推進に加え、地域内外への緑化意識の普及啓発にも貢献しており、その功績は高く評価されるものである。

ながたに^{しんこうきょう ぎ かい}振興協議会

所 在 地	大分県 ^{ぶんご} 豊後 ^{おおの} 大野市 ^し
代 表 者	会長 ^{あかみね} 赤峰 ^{てるひろ} 映洋

<功績の概要>

同団体は、旧長谷小学校区の8つの自治会で構成され、過疎化・高齢化が進む豊後大野市犬飼町長谷地域において荒廃する里山環境の再生と地域住民の緑化意識の向上に向けた様々な取組を行っており、地域の緑化推進や緑化意識の醸成に貢献している。

平成29年以降、同団体は住民生活や農林業に深刻な影響を及ぼしていた竹林の繁茂に着目し、地域一体となって竹の伐採と整備を進め、生活環境の確保や景観改善に寄与するとともに、住民が主体的に森林整備へ参加する体制を整えてきた。さらに、伐採した竹を堆肥やチップ燃料に加工して米や野菜づくりに活用する森林資源の循環利用を実現するほか、竹を加工して製造した竹パウダーと米ぬかの発酵熱を活用した酵素風呂施設の運営や特産品づくり、地元大学が立ち上げたベンチャー企業への原材料供給を行うなど、竹資源を基軸とした地域ブランドの形成にも取り組んでおり、自然資源の循環利用を推進する実践的な緑化活動につながっている。

また、他団体と連携して植物観察会の開催に取り組むなど、幅広い世代に里山の価値や自然環境の重要性を伝えることにより、緑化意識の普及啓発にも継続的に貢献している。

同団体におけるこれらの取組は、地域の環境保全意識及び緑化意識の醸成につながっていることに加え、里山保全のモデル的な取組として他地域への波及効果もあり、その功績は高く評価されるものである。

そ お し り つ つ ね よ し し ょ う が っ こ う
曾於市立恒吉小 学校

所 在 地	鹿児島県 ^{そ お し} 曾於市
代 表 者	校長 ^{ひら た} 平田 ^{むつ み} 睦美

＜功績の概要＞

同校は、校区内に約 5 haの学校林を有し、「人づくり、自然愛の育成」「基本財産づくり」を学校林の経営方針として位置づけ、児童のみならず保護者、地域住民が一体となって継続的な森林整備等に取り組み、地域における緑化推進に貢献している。

児童は学校林において下草刈りや間伐作業等の森林整備活動のほか椎茸栽培や樹名板の作成、実のなる樹木の観察や収穫・調理など、森林体験を重視した緑化活動を継続的に行っており、児童が自然の恵みを身近に感じ、森林への興味・関心と愛着を深める機会となっている。また、森林整備活動には、保護者や地域住民も積極的に参加しており、児童と保護者、地域住民の交流の場の創出にも寄与している。森林整備において伐採した間伐材は校庭の遊具の補修に活用されるほか、売却した場合の収益は児童の教育活動等に活用されている。

また、関係機関の支援を受けながら学校林の伐採風景の見学や伐採木を活用した木製ベンチの製作にも取り組んでおり、製作したベンチを老人福祉施設に寄贈するなど、緑化活動を通じた社会貢献も行っている。

同校による実践的な取組は、児童の自然と共生する姿勢を育むとともに地域全体の緑化意識の醸成に寄与するだけでなく、他校の模範となり、波及効果も期待され、その功績は高く評価されるものである。